

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体をもち 主体性・連帯性のある子どもを育てる ーいきいき なかよく のびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー					
重点目標		・授業の始めに「本時のねらい」を示すこと、授業の終わりに「ふりかえり」を行うこととを全ての教科において徹底していく。 ・スピーチに関する到達目標を明確にするとともに、学校全体の場でスピーチをする場を設け、取り組みを共有する。 ・ノート指導等について学年・学校として共通理解を図ったうえで取組を進めていく。 ・新しい学習指導要領において実施となる教科「道徳」について研修を進め、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。 ・あいさつについての取り組みを充実させる。 ・6年間の体力作りを見とおした系統性のある「がんばりカード」を作成する。 ・年間を見とおして継続的に体力づくりに向けた運動に取り組む。 ・ICT機器の効果的な活用を図る。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりにすすめる。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識、技能を習得させる。 ・子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ・個々の教師の資質を向上させる。	・朝学習（読書・視写・漢字・計算・スピーチ）の時間を確保する。 ・反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする ・継続的に本読みに取り組ませ、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。 ・本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。	・朝学習の時間に基礎基本の学習を進めることができる。 ・反復練習により、既習内容を確実に身につける。 ・国語の本読みを毎日続け、つまらずに読むことができるようになる。 ・わからないことを自分から質問できるようになる。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で、肯定的評価が70%以上になる。 ・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。	A ・朝学習の時間の活用や反復練習のプリントなどにより基礎基本の定着に重点を置いて指導することができた。 ・本読みカードの活用などにより国語の本読みを毎日続け読む力が伸びた。 ・本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つことはおおむね達成できた。しかし、授業の終わりに振り返ることに關しては「どのように振り返るか。」が共通理解されていない。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目での肯定的評価がおおむね達成出来たが、自己肯定感が低いのが課題である。	・来年度も引き続き基礎基本の定着をはかっていきたい。 ・授業の終わりに振り返ることに關しては「どのように振り返るか。」を学年・学校全体で研修し共通理解をはかる。 ・授業の目標が達成出来たことを認めはげまし自己肯定感を高める。	・学習の楽しさを知り、自信や喜びを積み重ね達成感を毎日感じられるようになって欲しい。 ・基礎、基本の理解は最重要課題である。 ・ねらいと終わりの確認は大切なことだと思う。自己の考えをアウトプットする訓練になり、将来に向けてとても役に立つ。 ・自己肯定感についてはより詳しく背景等を探り、向上に向けて取り組んで欲しい。
	思考力・判断力・表現力の育成	・「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。 ・「話す力」を向上させるためのスピーチ、話し合いの形態を研究する。 ・「書く力」を向上させる指導法、教材を研究する。 ・「思考方法」をより多く身につけさせる方法を研究する。 ・児童一人ひとりが主体的に取り組む学習活動を研究する。	・教材の本文を大切に読ませる。 ・教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。 ・学校朝礼で、〇年生と担当を決めて、スピーチの場を設ける。 ・ペア学習、グループ学習の場を設定する。 ・要約文や感想文を書く機会を増やす。 ・学習の時間に書く事を入れる。 ・視写をする。 ・ノート指導について、学年・学校として共通理解を図り、指導を進めていく。 ・授業の中で、比較・類推など思考する場面を増やす。 ・児童一人ひとりの疑問を大切にしたい課題設定を行う。	・本文を根拠として読み取ることができる。 ・月に1度は、クラス全員の前でスピーチをする。 ・スピーチの到達目標を大まかに低・中・高学年で決める。 ・友だちの考えと比較しながら自分の考えを深めることができる。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で肯定的評価が90%になる。また、保護者からの肯定的評価が90%になる。 ・時間内に思いや考えをまとめて書くことができる。 ・主張・根拠・理由を明確にして発表できる。 ・課題に対して自分なりの考えを持つことができる。 ・課題に対して自分の力で、又は友だちと協力して取り組み、解決しようとする姿が見られる。	B ・本文を根拠にして自分の考えを持つことができた。 ・経験を重ねることで、話すことに躊躇することがなくなった。 ・学校朝礼では時間がかかる。 ・学習の中でペアやグループの活動を取り入れているが、思考が深まる場面で取り入れることが必要である。 ・児童のアンケートの「授業はわかりやすい」の項目で児童の肯定的評価は87%と概ね達成できた。また、保護者からの肯定的評価は92%で達成できた。 ・課題に対して自分の考えを持ち、書く時間を確保し「書く」ことができた。 ・書く活動に慣れてきたが、まだ不十分である。 ・ノート指導について学年で統一をはかってきた。 ・発表のトライアングルを他教科でも活用することができた。 ・子どもが意欲的に学習できる課題の設定が見られた。 ・スモールステップによって、取り組みの見通しを持つことができた。 ・一人ひとりの疑問を課題設定につなげることが難しかった。	・これからも本文を大切にし、根拠を持って読めるようにしていく。 ・スピーチの到達目標を学年別に作成する。 ・学年で、朝礼に代わる取り組みを考える。 ・教師が思考が深まる場面で意図的にグループの活動を取り入れるようにする。 ・単元のゴールに書く活動を意識的に設定していく。 ・単元ごとやポイントで振り返りを行い、自分の考えを書けるようにしていく。 ・研究ともからめ学校としての共通理解をはかり指導を進める。 ・これからも国語以外の教科でも、比較したり並べ直したり理由を考えさせたりする活動を取り入れていく。 ・一人ひとりの疑問を取り上げ、課題設定していく。	・反復練習でより確実に身につけることは欠かせない学習法だと思う。また、社会科など、自分なりに調べて発表したり、ディスカッションするなどの場があっても面白いのではないかな。 ・人の前で自分の考えや意見を主張できる力をつけることは大切である。一方で人前に立つのがブラッシャーやストレスになる子もいるかと思うのでそういった場合の精神的なケアも図りながら取り組んでいって欲しい。
	読書活動の推進	・読書活動を充実させ、読書力・読解力・思考力の獲得を図る。	・「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 ・読み聞かせの時間を増やす。 ・週2回15分の「朝読書」を継続する。 ・週末に読書の宿題を出す。 ・子どもたちのニーズを把握した上で、図書館の本を充実させていく。	・児童のアンケートの「読書をするのが楽しい」の項目で、肯定的評価が85%以上になる。 ・1週間に少なくとも2冊は本を読む。	A ・児童のアンケートでは、肯定的評価が84%と概ね達成できた。 ・子どもたちのニーズを把握した上で図書館の本を充実させたことで、より読書への興味につながった。しかし、「読書の記録」の記入に消極的な児童もいた。	・子どもたちの興味につながる読み聞かせや、本の紹介活動の工夫をさらにしていく。 ・「読書の記録」を書く時間を設定し、声かけをしていく。	・大人の本離れが進む中、良いことだと思う。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育・情操教育の推進	・豊かな心を育む道徳教育の推進 ・豊かな心を育む情操教育の推進	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・「わたしたちの道徳」や「こころはばたく」などの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・冒險教育施設を有効に使う。 ・音楽会・図工展の活性化 ・低学年への音楽・図工の専科指導 ・「今月の歌」の取り組み ・作品等の廊下掲示 ・ICT機器を利用した、情操教育の充実	・他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活をおくることができ。 ・学期に1回は冒險教育施設を使い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる授業をする。 ・音楽会や図工展を通し、個性や多様性を認め合うことができる。 ・素直に自己表現ができる。 ・表現活動において自分の思いを相手に伝えることができる。	B ・他人に対して気遣い、思いやりの気持ちを持つことができるようになってきている。反面、自分のやるべきことができなかったり、最後まで持続したりすることが難しいところがあった。 ・音楽会では、一人ひとりが前向きに取り組み、仲間と力を合わせて演奏し、思いを込めて発表することができた。 ・学校朝礼で、全校生が声を合わせて歌う機会が持てた。 ・電子黒板や書画カメラを活用することで、様々な場面で理解が深められた。	・道徳の授業で、また、全教科を通して、小さなことを実践し持続する大切さを理解させ、見守り励ましなが指導していく。 ・知識・技能の積み上げを大切にしながら、仲間と聴き合う場面を設定し、思いや意図を持って演奏する素地を育てる。 ・レパートリーを増やし、声を合わせて歌うことの楽しさをさらに味わわせる。 ・ICT機器を活用するため、引き続き研修が必要である。	・協力することの大切さを学ばせることは大切である。
	いじめへの対応 問題行動への対応	・いじめの未然防止に努める。 ・いじめへの早期発見、早期対応を図る。	・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。	・「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。	B ・「なやみや不安があるとき、だれかに相談できる」の肯定的評価は77%で、概ね達成できている。しかし、約20%の児童が「相談できない」と考えている点に注目し、継続的に取り組む必要がある。	・各担任は、左記の具体的施策を継続する。一方で、それらの諸情報を学年で共有できるよう、週に一度の学年会を積極的に活用し、各クラスの情報交換をする。	・「相談できない」と回答した子どもが減るよう取組を進めて欲しい。 ・精神的にも多感で傷つきやすい年代になっていくので肉体的にも精神的にも健やかに成長できるようサポートをお願いしたい。
	不登校への対応	・不登校傾向児童への早期対応を図る。	・保護者、担任、学校カウンセラーとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・夏季研修会のテーマを「不登校」として取り組む。	・早期対応に努め、不登校児童を出さない。	C ・保護者やスクールカウンセラーとの連携、学年会や職員会での情報共有、不登校研修会の実施など、左記の具体的施策を丁寧に実施してきたが、結果的には年間30日以上欠席している児童が、昨年度と比べて増加している。別室登校等、何らかの具体的手立てを考へ、実施する必要がある。	・教室への一時的居場所としての相談室の活用。(担当者の常駐) ・やまびこ館、学習支援室を活用し、登校への契機とする。 ・但馬やまびこの郷を紹介し、相談室の案内をするなど、保護者への啓発をする。 ・上記諸情報を部会で発信する。	・原因の把握等、難しい面もあるが、時間が経たなくても解決しやすい問題である。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。	・体育の授業で、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「わくわく楽間タイム」を充実させる。 ・スポーツパッチの取り組みを保つ。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動するようになる。 ・全てのクラスで、授業の初め5分間を体力向上の取り組みに充てる。	B ・単元に応じた「がんばりカード」を使用することにより、目標を持って活動することができた。 ・「わくわく楽間タイム」や委員会企画などを充実させることにより、外に出るきっかけ作りはできたが、出にくい児童には引き続き声かけが必要である。 ・「パワーアップタイム」の取り組みを年間を通して行えた。	・集約した「がんばりカード」を見直し、改善につなげていく。 ・今後も定期的に実施していくと共に、教師からの声かけも大切に取り組んでいく。 ・より体力の向上につながる取り組み方について検討していく。	
開かれ信頼される学校園	・学校情報の積極的な発信	・家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。 ・「信頼される教師の育成」と「信頼される学校づくり」を推進する。	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85%以上になる。 ・保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 ・地域の行事にすすんで参加する。	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。 ・保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」の項目で肯定的意見が85%以上になる。 ・「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。	A ・ほぼ毎日、ホームページを更新し、学校の様子をリアルタイムに発信することができた。また、保護者アンケート結果も肯定的意見が89%であり積極的な発信により学校情報について理解していただいた。 ・保護者アンケート結果は肯定的意見が89%であった。引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに素早く丁寧な対応に努めていく。 ・教師バンドやソーラン隊が夏祭りに参加するなど、地域の行事に積極的に参加した。	・今後も学校の取り組みについて情報発信し、学校の取り組みについての理解を深めていく。 ・引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに、素早く丁寧な対応に努めていく。 ・図書や花壇整備、土曜学習などPTAや地域との連携を今後も大切にしていきたい。 ・働き方改革にも取り組みながら、ご協力いただいている地域の行事等に参加していきたい。	・先生の対応も丁寧で教室の前にも写真などたくさん飾っており、子どもの様子を伺い知ることができた。

学校関係者評価総括 ・今後も、より自己評価が上がっていくよう改善策等に基づいて取組を進めていって欲しい。 ・教頭の業務があまりにも多いので人的配置があるとうい。 ・管理職の異動ももう少し長いスパンの方が児童、地域の活動のためにもありがたい。

次年度に向けた重点的な改善点 ・授業の終わりに振り返ることに關しては「どのように振り返るか。」を学年・学校全体で研修し共通理解をはかる。 ・教師が思考が深まる場面で意図的にグループの活動を取り入れるようにする。 ・一人ひとりの疑問を課題設定につなげていく。 ・単元の中で意識的に書く活動を設定し、振り返りを行いながら、自分の考えを書けるようにしていく。 ・不登校傾向児童への早期対応を図るため、関係機関との連携をより密に図るなど取組を進めていく。
--